

風土記の丘の花だより¹³⁴

今、そしてこれから見られる植物(2022年5月14日)

ヒラドツツジが終わり、サツキツツジが咲きはじめ、アヤメが終わり、カキツバタが咲きはじめました。この季節は目まぐるしく咲く花が変わります。毎日、観察する花が多くて楽しいですね。



あまり聞き慣れないかもしれませんが、イボタノキの花が咲いています。柳川家の前の坂を上らないで、大きなニッケイの木から石灯籠を目指して行くと突き当たりの右に咲いています。小さいので見つけにくいかもしれません。また、次に紹介するスイカズラが巻き付いていますから、その花とも間違わないでください。それほど珍しくはありませんが、意識しないと見る機会のない花だと思います。



ではそのスイカズラです。咲きはじめは真っ白で、散る前には黄色くなります。それでその色を銀と金に例えた呼び名もあります。漢字では「忍冬」と書き、そのままニンドウと読むこともあります。「冬を忍ぶ草」なんて、昔の人は風情のある名前を付けたものですね。とてもいい甘い香りのする花です。



ヒナキキョウソウに花が咲いています。普通は閉鎖花といって花びらが開かない花がほとんどですが、たまに写真のようなきれいな花が咲きます。この草は外来種で、あちこちに生えるので、普段はきつと嫌われていることでしょう。でもこんな花が咲くと草むしりの手が止まるのではないのでしょうか。



シャリンバイの白い花が咲いています。漢字で書くと「車輪梅」、葉の付き方が車輪みたいで花が梅に似ている(?)ことから名付けられました。海岸などによく自生していて、どちらも白い花なのと、葉の形も似ているので、トベラとよく間違えられます。でも近くで見ると全く違います。柳川家の前にはどちらも咲いているので、比べてみてください
松下